

F-30 共稼ぎ主婦の生活構造—地方都市における現場就業主婦の場合—(女子編)
 福島大教育 岡村益 ○母の聖母短大 壁谷沢万里子

目的 本報告は才22回日本家政学会報告「共稼ぎ」主婦の生活構造—職業別比較—
 の続編である。フル—カ—主婦の研究例が少いことと、経済上・家庭経営上問題
 が多いと見うけたことから、以来フル—カ—に焦点をあて、地域・職種について
 て調査してきた才女報である。調査の視点は既報と同じく次の通りである。① 共稼ぎ
 主婦の生活構造が家族周期・家族型および夫の職業により変化する実態の把握 ②
 地域性の影響 ③ フル—カ—主婦に共通する生活構造の解明

方法 調査時期は昭和45年10月。福島県会津地方の古い商工業都市喜多方市にある
 電子計算機部品製造の下工場に就労する主婦を悉皆調査し108の標本を得た。方法は
 自計式(主として一部聴取法)を加え、本報告は同時期同市の食品罐詰工場(既報
 ・才子報)との比較を試みる。対象者は30代が59.3%を占め、そのうち工場に比べて年
 齢が若く、家族周期は末子が就学前段階を49.1%が占めている。また、核家族率は
 63%と高く農村的背景とあることは、この工場の設立時期がそれと関連がある。

結果 農村を背景とするためか、所有や店をかかみ住宅事情はよく、工場の場合
 に比べて生活に安定性がある。この安定性は働きに出ている理由・夫の意識・貯蓄の仕
 方にも表われている。勤務年数が短かく家事に忙しい期間のためか生活上の問題を持
 つ者は工場より多いが、家事処理対策はあまざるべきでない。また、耐久消費財の
 使用を調べた家専用品の使用状況は右の生活習慣がみられ、このことは地域の
 後継者と家族関係の前近代性に基づくものと考えられる。